

北米向けフェニクス材を試験輸出

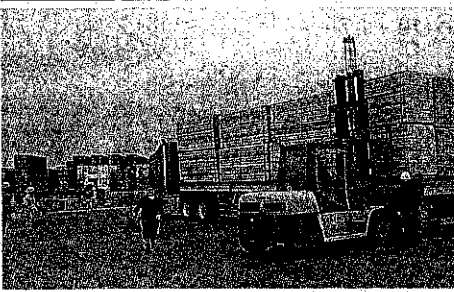
八戸港からバンクーバー港に

吉 本

吉本(長野県南佐久郡、由井正隆社長)は、岩泉事業所(岩手県下閉伊郡)で生産した杉フェニクス材をカナダ・バンクーバーへ試験輸出した。ウッドショック前から取り組んでいた販路多角化の一環で、北米市場の評価によつては今後も継続する方針を立てている。

同社は自社林や請け負いによる素材生産、造林、木材加工(集成材ファミナ、土木用杭、梱包・パレット・木工

品等)まで幅広く展開している。カラ松を中心に各種土木材や建築材まで手掛けており、16済の土木用杭丸太などまで販売する。米中2大需要の台頭で外材急騰が進み、同社も5月からは国産材丸太や製品の引き合いが急増した。ただし、それまでの製材事業は長年苦戦続きで、販路拡大の一環で商社と協力して輸出事業を検討してきた。



5月に八戸港で船積みした杉フェニクス材2440、3050の杉KDフェニクス材。北米の戸建て住宅向けのエクステリア材で、今後の市場評価を参考にして次回生産・出荷も検討していく。

ただ、今回の杉種まきは必死の取り組みを要する時がくると話している。これはフェニクス材の輸出を避けた木材を中国向けにすることを検討することもある。結果的に悪化となった。今後は抜け等れるカラ松をとも視野に入る。

シテナツ台分(約100立方尺)を輸出した。同社岩泉事業所で製材し、青森県八戸港へ輸送して5月19日に船積み、6月29日にバンクーバー港に到着した。

サイズは厚み17×幅140×長さ2440、3050の杉KDフェニクス材。北米の戸建て住宅向けのエクステリア材で、今後の市場評価を参考にして次回生産・出荷も検討していく。

由井正宏(吉本社長)は、岩泉事業所(岩手県下閉伊郡)で生産した杉フェニクス材をカナダ・バンクーバーへ試験輸出した。ウッドショック前から取り組んでいた販路多角化の一環で、北米市場の評価によつては今後も継続する方針を立てている。